

スポーツ健康学部子どもスポーツ教育学科 カリキュラムマップ

| | | |
|------------|---------------|---|
| ディプロマ・ポリシー | 【知識・技能】 | ① 子どもの発育・発達の基本的知識を修得し、その概要や運動との関係を説明できる。 ② 幼稚園および小学校における教育内容を理解し、適切な指導ができる。 ③ 基本的な運動技術およびそれらの指導技術を実践することができる。 |
| | 【思考力・判断力・表現力】 | ④ 社会における幼児教育ならびに初等教育に関する課題の実態を把握し、その関連要因、解決方法あるいは改善策を提示することができる。 ⑤ 幼稚園ならびに小学校において、対象の特性や諸条件に合わせて適宜教育・指導計画を立案し、実践の場面で臨機応変に改変し対応することができる。 |
| | 【主体性・多様性・協働性】 | ⑥ 情報を整理し、その結果をまとめるとともに、それらに関するプレゼンテーションを行うことができる。 ⑦ 子どもやスポーツならびに教育に関する情報を、積極的かつ広範に求める態度を身につけている。 ⑧ 課題解決に対して、常に積極的に周囲と協力して取り組む態度を身につけている。 ⑨ 教育・指導の場面においては、参加者(受講者など)の立場を考慮することができる。 |

| 分野 | 科目名 | ナンバリング | 科目概要(*1) | カリキュラム・マップ | | | | | | | | | AL(*2) | |
|---------------------|--------------------|---|--|------------|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | | |
| 学部共通科目 | 健康科学概論 | SM1101 | ・人体の構造と機能やスポーツ・健康に関する基本的な知識を理解し、その概要を説明することができる。 ・健康や体力の維持向上に対する基本的な運動の効果について理解し、その機序を説明することができる。 ・社会におけるスポーツや健康に関する基本的な課題の実態を把握し、その関連要因、解決方法あるいは改善策を提示することができる。 | ◎ | ◎ | | ◎ | ○ | | | | | | ◎ |
| | スポーツ科学概論 | SM1102 | スポーツ科学を様々な分野から学習することにより、今後受講して行く授業の基礎知識を得るとともにスポーツを総合的に捉え、身体活動や地域貢献に発展出来るようにすることを目的とする。 | ◎ | ◎ | | ◎ | ○ | | | | | | ◎ |
| | スポーツ原理 | SM2301 | 現在、スポーツシーンで何が問題になっているのか、また、これからスポーツや体育が人の生涯の中でどのように役立つかを理解する。 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | | ○ |
| | スポーツ心理学 | SM1301 | 運動の制御・学習メカニズムを知るとともに、その基本原理が心の問題と同型性であることを理解する。 | ○ | ▲ | | ▲ | ○ | | | | | | ○ |
| | 健康心理学 | SM3301 | ・健康心理学の基礎知識を身につける。 ・健康心理学の学問的、実践的貢献に関する理解を深める。 ・受講者自身の健康問題やQOL(Quality of Life)について再考し、健康な生活習慣への動機づけを高める。 | ○ | ▲ | | ◎ | ○ | | | | | | ◎ |
| | スポーツ倫理学 | SM3302 | 体育・スポーツの諸問題(ドーピング、体罰・暴力、ジェンダー、参加資格、運動部活動、フェアプレイ、誤審など)について、正邪、善悪、公平、公正、正義などの倫理学の観点から、論理的に意見が主張できるようになる。 | | | | | | ▲ | | | | ▲ | ◎ |
| | スポーツ社会学 | SM2302 | ・体育・スポーツにおける事象について社会学的な観点から考察力を習得して、自己の意見を主張できるようにする。 ・体育・スポーツにおける基本的な用語について理解できるようにする | | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | | | ○ |
| | スポーツ生理学 | SM2303 | 運動時における、骨格、筋、循環、呼吸、神経系等の関わり合い、そして、それぞれの組織の変化と適応の基本的なメカニズムについて安静時とどのように違うかを科学的に理解する。 | ◎ | | | ○ | ○ | | | | | | ○ |
| | 栄養学概論 | SM2304 | ・正しい健康管理の出来る、栄養知識を習得する。 ・各ライフステージごとの栄養摂取法を習得する。 ・いろいろな生活環境における栄養摂取法を習得する。 ・食品と栄養の正しい関連を知る。 ・生活習慣病の予防法を体得する。 ・基礎知識をもとに周りの人々への助言、指導が出来る。 | ▲ | | | ▲ | | | | | | | ○ |
| | 健康レクリエーション論 | SM2305 | レクリエーションの基礎を理解するとともに支援方法の実際を習得ができるようにする。 | ▲ | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | | | ○ |
| | 医学一般(概論) | SM2306 | 人体の構造と機能を理解することを目標とする。一般的な病気とその予防を理解することを目標とする。リハビリテーション医学と介護保険制度を含めた医療保険制度について理解することを目標とする。 | ◎ | | | ○ | ○ | | | | | | ○ |
| | 看護学概論 | SM3303 | ・看護の基本概念、本質、ヘルスケアにおける看護の役割、専門性が理解できる。 ・看護の対象である人間を理解し、必要な援助過程があることが理解できる。 ・臨床看護に必要な基礎的理論を通して、対象の心理・行動の理解および援助法について理解できる。 ・保健、医療、福祉システムや関連する制度が理解できる。 | ◎ | | | ○ | ○ | | | | | | ○ |
| | 国際スポーツ健康事情 | SM1302 | このプログラムは、アメリカのスポーツおよび健康について、学校やスポーツ施設等を訪れ、日本とは違うスポーツ環境や制度や仕組みを学修、ヒトの健康やスポーツさらに教育について、国際的な視野で考え、発想できるような教養の修得を目的とする。 | | ▲ | | ▲ | ▲ | | | | | | ○ |
| | スポーツ実技11(スキー) | SM1303 | スキーを中心としたウインタースポーツを通して、日常では経験できない滑走運動の技術・指導法だけでなく、自然環境、社会状況の影響を受けて変化するスポーツスタイルについて学ぶ。 | ○ | | ◎ | | | | ◎ | ○ | ○ | | |
| | スポーツ実技12(アクアビクス) | SM2307 | 水の特性を十分理解し、水中環境および高齢化にも対応出来るさまざまな水中でのエクササイズのプログラミング、指導法、安全について習得し、実施できるようにする。 | ○ | | ◎ | | | | ◎ | | | | |
| | スポーツ実技13(ウォーキング) | SM2308 | ・ジョギング及びウォーキングの効果について理解する。 ・ジョギング及びウォーキングの実施における留意点を理解する。 ・関連するスポーツ障害について理解する。 ・ジョギング及びウォーキングの実施計画を立案し、実践する。 ・ストレッチングについて理解する。 | ○ | | ◎ | | | | ◎ | | | | |
| スポーツ実技14(エアロビクスダンス) | SM2309 | エアロビクスダンスエクササイズの基礎知識・技術の習得。学生、受講者である将来の理学療法士、インストラクター、トレーナー、指導者としての心構え、意欲向上、自己実現をモチベートする。 | ○ | | ◎ | | | | ◎ | | | | | |
| スポーツ実技15(コンディショニング) | SM3304 | 自分のコンディショニングが、様々な方法によって良い状態を保ち、目的が達成できるように整える方法を身につけること。更に、プレゼンテーションを行い、より豊かな生活を送るため方法論を指導できるようにする。 | ○ | | ◎ | | | | ◎ | | | | | |
| 学科基礎科目 | 子どもスポーツ教育論 | SM1103 | 幼児期・児童期の運動・スポーツの意義について理解する。 子どもの運動発達の特徴と運動・スポーツ活動の効果について理解する。 子どもの運動習慣、運動能力の課題を踏まえ、運動の指導者の役割を説明できる。 | ◎ | ○ | | ○ | ◎ | | ○ | | | | ○ |
| | 発育発達とスポーツ | SM1104 | 身体の発育・発達、加齢による変化の知識を身につけるとともに、それらの変化に見合ったスポーツ、運動の在り方について検討できる能力を身につけることも目標とする。 また、現代社会の子ども達が抱える体力、運動能力、健康生活に関する現状と問題点を理解する。 | ◎ | | | | | | ○ | | | | |
| | 地域スポーツ論 | SM2310 | ・地域スポーツに関する基本的事項を理解し修得する。 ・地域スポーツの今後のあり方を考究する能力を育成する。 | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| | 初等教育原理 | SM2101 | ・これまで受けてきた学校教育での体験を客観的に見つめ直す態度を養う。 ・教育の形式や内容が歴史的に変化してきた様子を理解する。 ・今日の教育をめぐる具体的な問題状況を考察し、自分なりの意見を形成する。 | ○ | ◎ | | ◎ | ○ | | ○ | | | | ◎ |
| | 保育原理 | SM2102 | ・保育の意義と基礎理論について学ぶ。 ・子どもの発達や主体性を尊重した保育のあり方を理解する。 ・現代保育の課題を理解し、今後の保育について意見をもつ。 | ○ | ◎ | | ◎ | ○ | | ○ | | | | ◎ |
| | 運動指導法Ⅰ(器械運動、ボール運動) | SM3101 | それぞれの領域において適切かつ安全に留意した指導を行える技能の習得を目指す。 | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | | | | | | ◎ |
| | 運動指導法Ⅱ(陸上運動、水泳) | SM3102 | 陸上競技および水泳の基礎理論と指導法について理解し、指導計画を作成することができる。陸上競技および水泳の示範および指導、助言、補助ができる。陸上競技および水泳のルールや審判の方法、競技会の実施方法を理解し実践できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | | | | | | ◎ |
| | 児童の体づくりと動きづくり | SM1304 | 「体ほぐしの運動」と「多様な動きをつくる運動(遊び)」の必要性を理解するとともに、子どもの発育発達に応じた運動を計画的に実施できる資質や能力を養成することを目的とする。 具体的には、「体ほぐし運動」や「多様な動きをつくる運動(遊び)」を通して、自己の体力に応じた動きづくりを実践的に学ぶ。また、基礎的な運動の行い方を習得し、各種の用具を使った運動の実践により、発展的な動作について身体的な見識を深め、対象と目的に合わせた運動の計画が立案出来るようになる。 | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | | | | | | ○ |

スポーツ健康学部子どもスポーツ教育学科 カリキュラムマップ

| | | |
|------------|---------------|---|
| ディプロマ・ポリシー | 【知識・技能】 | ① 子どもの発育・発達の基本的知識を修得し、その概要や運動との関係を説明できる。 ② 幼稚園および小学校における教育内容を理解し、適切な指導ができる。 ③ 基本的な運動技術およびそれらの指導技術を実践することができる。 |
| | 【思考力・判断力・表現力】 | ④ 社会における幼児教育ならびに初等教育に関する課題の実態を把握し、その関連要因、解決方法あるいは改善策を提示することができる。 ⑤ 幼稚園ならびに小学校において、対象の特性や諸条件に合わせて適宜教育・指導計画を立案し、実践の場面で臨機応変に改変し対応することができる。 ⑥ 情報を整理し、その結果をまとめるとともに、それらに関するプレゼンテーションを行うことができる。 |
| | 【主体性・多様性・協働性】 | ⑦ 子どもやスポーツならびに教育に関する情報を、積極的かつ広範に求める態度を身につけている。 ⑧ 課題解決に対して、常に積極的に周囲と協力して取り組む態度を身につけている。 ⑨ 教育・指導の場面においては、参加者(受講者など)の立場を考慮することができる。 |

| 分野 | 科目名 | ナンバリング | 科目概要(*1) | カリキュラム・マップ | | | | | | | | | AL(*2) |
|--------------|----------------------------|--|--|------------|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | |
| | 子ども運動指導論 | SM2311 | 子どもの運動発達とその測定法について、適切に説明することができる。子どもの運動指導に関する知識を踏まえて、指導計画を立てることができる。 | ◎ | ◎ | ▲ | | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | スポーツ実技9(バレーボール) | SM2312 | バレーボールに関する基礎的な技術の習得と各ポジションの役割などの専門的な知識を身につける。また、指導者として、基礎的な個人技術、チームとしての集団技能を身につけるための練習方法や指導法を修得し、指導現場で実践できることを目指す。 | | | ◎ | | | | ○ | ○ | | |
| | スポーツ実技10(ソフトボール) | SM2313 | ベースボール型スポーツの特徴を理解し、技術を身につけた上で指導できるようになること。 | | | ◎ | | | | ◎ | | | |
| | スポーツ実技19(レクリエーション・ニュースポーツ) | SM2314 | スポーツ的要素の大きいレクリエーション支援の基礎を習得する。数種類のニュースポーツを実践し、生涯スポーツとして支援、指導できる知識と方法論を習得する。 | | ○ | ◎ | | ○ | | | | ○ | |
| | スポーツ実技20(アダプテッドスポーツ) | SM3305 | ・さまざまな障害の特性および障害児の発達の特徴を理解し、個々に応じた体育・スポーツ指導と支援について理解する。 ・障害の有無を問わずインクルーシブな体育・スポーツ活動に参加する全ての人のニーズに応じた指導ができるようになる。 | | ○ | ◎ | | ○ | | | | ○ | |
| 子どもスポーツ・健康科目 | 子どものからだの発育発達 | SM3306 | 概論として学習した「発育発達とスポーツ」の講義内容を踏まえ、本授業では特にからだの部分に特化してヒトの発育発達過程を理解する。また、発育発達期における近年の重要事項の理解とその問題を解決するための研究に対する理解を深めることを目標とする。 | ◎ | | | | | | | ○ | | |
| | 幼児理解の理論と方法 | SM3307 | ・各発達段階における子どもの発達の特徴を説明できる。 ・子どもの発達の原動力について、様々な観点から説明できる。 | ◎ | | | | | | | ○ | | |
| | 子どもと健康 | SM1105 | 色々な時代背景の中で、子どもたちはどのような健康問題を抱えていたのか、そしてどのように解決されてきたのかということを理解することが求められる。その上で今日の子どもたちはどのような健康課題を持っているのかを理解し、更に将来の子どもたちが直面する可能性のある健康問題を推測する能力を育成する。 | ○ | | | | | | | ○ | | |
| | 子どもの運動遊び(伝承遊びを含む) | SM1106 | 幼児期の運動遊びの意義を理解する。多様な動きを取り入れた運動遊びや伝承遊びの指導・支援のポイントを理解する。 | ◎ | | ○ | | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | 子どもの食と栄養 | SM3308 | 栄養に関する基礎的な知識を理解する。子どもの食教育と危機管理の考え方を理解する。 | ○ | | | | | | | ○ | | |
| | 健康フィールドワーク | SM3309 | ジュニア期の健康や運動、野外活動に関する理論を理解し、実際に運営できるようにすること。 | ◎ | ○ | ○ | | ▲ | ○ | ▲ | | ◎ | |
| | 学校保健・安全論 | SM3310 | 学校保健、学校安全の重要性とその根拠を説明できること。 | ○ | ○ | | | | | | ○ | | |
| | 生涯スポーツ論 | SM2315 | ・国内外における生涯スポーツの現状および施策について説明できるようになる。 ・生涯スポーツ社会実現へむけた制度を理解し、将来同分野で活躍できるようにする。 ・ライフステージに適したスポーツ活動の在り方を理解し、実践・指導できるようにする。 | ◎ | | | | | | | ○ | | |
| | 健康レクリエーション実習 | SM3311 | ・レクリエーション要素を多く含んだ運動を正しく指導できるようになる ・健康増進を目的とした運動を正しく指導できるようになる ・健康運動教室に参加する者の立場を理解し、対応することができるようになる ・指導者として、身体の動きを言葉で表現できるようになる ・健康づくりに関するイベントの立案・実行ができるようになる | ◎ | | ○ | | | ○ | | ▲ | ◎ | |
| | 障害者福祉論 | SM3312 | 「障害」について多様な見方、障害者福祉の基本的な知識を得、実態、現状を把握しつつ、障害児・者および家族のニーズをどのように捉えて、知識を活かしていくかを理解するだけでなく、各自が自らの問題として捉え考えていけることを目標とする。 | ○ | | | | | | | ○ | | |
| | 子どもの医学 | SM3313 | ・子どもの身体的特徴や精神的特徴・成長・発達について述べる事ができる。 ・子どもに多い病気を理解し、予防方法、感染拡大を防ぐ方法を述べる事ができる。 ・子どもに多い病気を理解し、病気を持つ子どもへの配慮の仕方、緊急時の対応方法を述べる事ができる。 ・アナフィラキシーの緊急対応で、エピペンの使い方を実践できる。 | ○ | | | | | | | ○ | | |
| | 体育科教育法(初等) | SM2103 | ・体育科の目標論、体育授業の指導論について理解する。 ・学習指導要領及び学習指導要領解説に示された体育科の学習内容を理解する。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 体育科教育実践論 | SM4301 | 本科目では、体育科教育法(初等)で学習した体育科の指導法に関する知識、技術をさらに発展させ、実践的指導力を向上させることを目指す。多様な児童に配慮した教材について、実践研究や書籍などを調べ学習計画の作成、授業実践を行う。深い教材研究と授業実践の共同的な振り返りを通して体育科の実践的指導力の向上を図る。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | |
| 国語科教育法 | SM2104 | 国語科の授業を構想する上で、必要な教材研究の方法、評価の方法、児童の実態の把握の方法など、実際の教科書教材を使って教材研究を行い、実践に向けて単元学習の指導計画案や1時間の指導案を作成し、基本的な授業の構想力・構築力を身につける。 | ◎ | | | ○ | ◎ | ○ | ▲ | | ○ | | |
| 国語科教育実践論 | SM4302 | 「初等国語」「国語科教育法」で学んだ授業の理念や教材研究の方法をもとに、グループになって実際に模擬授業を行う演習形式の授業である。グループで教材選択から教材研究、学習指導案作成までを行う。一人一人が必ず教師役になって授業をする。他の学生は児童役になって各学年の児童をイメージしながら授業を受ける。授業後、みんなで授業分析を行い、よりよい授業の在り方について協議し、授業の成果と課題を明らかにする。そして、各自で自省して改善案を作成する。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ◎ | ▲ | | ○ | | |
| 算数科教育法 | SM2105 | ・算数科教育の内容と方法について理解して、教材研究をして、授業案を作成することができる。 ・算数的な活動との関連、数学的な考え方の系統性を理解し、具体的な指導に結びつけられる。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | ▲ | | ○ | | |
| 算数科教育実践論 | SM4303 | 算数科の授業の実践的な指導法と評価法について、教育現場の事例を参考にしながら、模擬授業および教育実習における授業を踏まえて、教材研究を行いながら技能と技術を身につける。算数的・数学的な活動との関連、および数学的な見方・考え方の系統性を実践的に捉え、初等算数科の教育の意味を理解して、また、算数科の内容がどのように生活に活かされるのかについても考察する。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ◎ | ▲ | | ○ | | |
| 理科教育法 | SM2106 | ・小学校理科の目標、内容などの基本的な理解を図る。 ・小学校理科で扱う基本的な内容についての理解を図る。 ・小学校理科の教材構成と子どもの自然認識について理解を図る。 ・小学校理科の学習指導と評価についての理解を図る。 ・小学校理科の評価の課題と方法についての理解を図る。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | ▲ | | ○ | | |
| 理科教育実践論 | SM4304 | 理科授業の展開を具体的な内容に即して構想し、教育実習や採用後の「理科指導力の向上」の基盤を育成する。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ◎ | ▲ | | ○ | | |
| 社会科教育法 | SM2107 | 小学校児童に、現代社会の課題や将来の展望を思考・判断するのに有益な主題について認識させることができるような社会科指導法を身につける。受講者全員が、小学校社会科における教科内容を地理的、歴史的、公民的分野から科学的に分析・吟味することができるようにする。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | ▲ | | ○ | | |
| 社会科教育実践論 | SM4305 | 小学校社会科教育における目標・内容・方法論をふまえて、授業づくりの基盤となる理論をもとに教材開発、発問構成、授業構成の実際を学習指導案の形で具現化する。作成した指導案をもとに模擬授業を実施し、相互評価することで指導案と授業を評価する力を実践的に養おうとするものである。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ◎ | ▲ | | ○ | | |
| 音楽科教育法 | SM3103 | 小学校学習指導要領音楽科の目標及び内容を理解し、指導の要点を捉えることができ、音楽科の授業の構成や指導案の作成ができる。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | ▲ | | ○ | | |

スポーツ健康学部子どもスポーツ教育学科 カリキュラムマップ

| | | |
|------------|---------------|---|
| ディプロマ・ポリシー | 【知識・技能】 | ① 子どもの発育・発達の基本的知識を修得し、その概要や運動との関係を説明できる。 ② 幼稚園および小学校における教育内容を理解し、適切な指導ができる。 ③ 基本的な運動技術およびそれらの指導技術を実践することができる。 |
| | 【思考力・判断力・表現力】 | ④ 社会における幼児教育ならびに初等教育に関する課題の実態を把握し、その関連要因、解決方法あるいは改善策を提示することができる。 ⑤ 幼稚園ならびに小学校において、対象の特性や諸条件に合わせて適宜教育・指導計画を立案し、実践の場面で臨機応変に改変し対応することができる。 ⑥ 情報を整理し、その結果をまとめるとともに、それらに関するプレゼンテーションを行うことができる。 |
| | 【主体性・多様性・協働性】 | ⑦ 子どもやスポーツならびに教育に関する情報を、積極的かつ広範に求める態度を身につけている。 ⑧ 課題解決に対して、常に積極的に周囲と協力して取り組む態度を身につけている。 ⑨ 教育・指導の場面においては、参加者(受講者など)の立場を考慮することができる。 |

| 分野 | 科目名 | ナンバリング | 科目概要(*1) | カリキュラム・マップ | | | | | | | | | AL(*2) | |
|----------------------|-------------|--------|--|------------|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|--|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | | |
| 初等教育科目 学科専門科目 | 図画工作科教育法 | SM3104 | 小学校図画工作科の「表現」「鑑賞」領域に関わる教材を制作し、学習指導に必要な基礎的な知識と造形力を育成し、用具・道具の使い方を習得する。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | ▲ | | ○ | | |
| | 家庭科教育法 | SM3105 | ・小学校家庭科の指導に必要な家庭生活に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。 ・家庭生活を大切に思う気持ちや家族の一員として生活を豊かにしようとする実践的な態度を培う。 ・問題解決的な学習を重視し、子どもたちに主体的な学びができるようにするための、実践的・体験的な活動や調べを行う。まとめ、プレゼンテーション、意見交換をすることで言語活動も充実させる。 ・資料収集する中で、収集した資料の中から必要なものを選択するが思考力や判断力をはたらかせて意思決定をすることの大切さに気付く。 ・創意工夫してまとめたりプレゼンしたりすることが主体的・対話的で深い学びにつながることを知る。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ◎ | ▲ | | ○ | | |
| | 生活科教育法 | SM2108 | ・能動的学習(アクティブラーニング)をすることで生活科への興味・関心を高め、より深い探究力を身に付ける。 ・生活科誕生の背景とその要因、教科目標及び内容構成に関する考察を通して、生活科の本質、教科の独自性について理解する。 ・理論的・実践的に生活科について学習し、生活科学習の指導と支援に関する基礎的な知識と技能を習得する。 ・実地探検、情報収集活動など具体的な活動を行い、収集した情報を整理しまとめ、プレゼンとして発表することで、情報活用能力、発信力を高め、表現力を身に付ける。 ・グループ活動による探検、情報収集活動、プレゼンを通して、他者とのコミュニケーション能力を高める。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | ▲ | | ○ | | |
| | 初等体育 | SM3106 | ・小学校の学習指導要領解説に示された技能を身につける。 ・指導、師範を意識した各技能のポイントを理解し実践できる。 ・各運動領域の特性及び学習方法を理解する。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | | | | | ○ | |
| | 初等国語(書写を含む) | SM3107 | 小学校における国語科教育内容である話すこと聞くこと、書くこと、読むことの3領域と言語文化と国語の特質に関する事項等と、各学年の主な学習指導の概要について学ぶ。 | | ◎ | | ○ | | | | | | ○ | |
| | 初等算数 | SM3108 | 算数科の学習の領域、数と計算、量と測定、図形、数量関係(あるいは変化と関係、データの活用)そして数学的な活動の背景となる数学各分野の内容について、基本的な理解と技能の習得を図る。 自然にある事柄や事象について、数理的な側面から表現を工夫することを通して、数学の概念(考え方や捉え方)を学び、算数科にも活用することができる技能と素養や態度を培う。 | | ◎ | | ○ | | | | | | ○ | |
| | 初等算数(演習) | SM4306 | 初等算数に関わる数学の内容と背景の理解をして、演習を中心にして身に付けて確かな技能として、数学的な考え方をまた初等教育に生かすことのできる活用力と表現力を培う。初等算数における授業案の作成や評価の観点について整理でき、視野を広げることのできる基本的そして汎用的な数学の内容演習をおこなう。 | | ◎ | | ○ | | | | | | ○ | |
| | 初等理科 | SM3314 | ・小学校理科で扱う内容の取り扱い方についての基本を理解するとともに、観察実験についての基本的な技能の育成を図るとともに、観察実験の準備方法、指導上の留意点(安全指導を含む)などの基本的な理解と授業実践に向けた能力や態度を育成する。 | | ◎ | | ○ | | | | | | ○ | |
| | 初等社会 | SM3315 | 社会科教育観の形成が授業の到達目標である。そのために、以下のテーマを取り上げる。 ・小学校社会科教育の現状と社会科誕生の経緯や学習指導要領に示された内容、代表的な社会科授業理論を踏まえた上で、小学校社会科教育の意義を理解する・目標・内容・方法を貫く単元構成・授業設計を行うことのできる代表的な社会科授業理論を理解し、自分なりの授業構想に生かせるようにする。 ・社会事象の背景にある学問的アプローチを根拠に、社会科授業において | | ◎ | | ○ | | | | | | ○ | |
| | 初等生活 | SM2316 | ・生活科の授業の実際や児童の実態を視聴覚資料や講話によって理解する。 ・生活科の指導内容を項目毎に理解し、具体的な指導計画や指導案作りを行い、模擬授業を実践する。 ・模擬授業を行った際、指導者・受講者双方の立場で、その授業についての是非を考察し討論する。 | | ◎ | | ○ | | | | | | ○ | |
| | 初等音楽 | SM4101 | ピアノの集団レッスン及び個人レッスンを受けることから、童謡や小学校歌唱共通教材などを歌いながら弾けるようになることを目標とし、各個人の能力に応じた楽曲を課題として学ぶ。またその中で、音楽理論の知識や、和音による伴奏の実践、正しい発声による歌唱などを、同時に習得できるよう各受講生の状況に合わせた指導を受けることから、豊かな表現力の基礎を養う。 | | ◎ | | ○ | | | | | | ○ | |
| | 初等図画工作 | SM4102 | 造形的な遊びから造形活動(描画表現、立体表現、平面表現、工作)・鑑賞学習へ展開することを意識した内容としている。受講者に求められることは「子どもになること」である。題材への興味・関心、造形活動での発見や驚き、友達と活動を共有することの楽しさを素直に表情や言動に表すこと。このことが、実際の教育現場で子どもと共感的に学ぶことにつながる。 | | ◎ | | ○ | | | | | | ○ | |
| | 初等家庭科 | SM4307 | 学習指導要領を踏まえ、家庭科でめざす子どもの姿、家庭科で教えるべき内容を理解する。それらを進める中で、「家族や近隣の人々との関わり」「食育を踏まえた調理技能」「衣や住の環境に配慮した活用や製作」などの具体的な実践能力を身に付け、基礎的・基本的な知識や技能の習得をしていく。 | | ◎ | | ○ | | | | | | ○ | |
| | 教育課程の意義と編成 | SM2109 | この授業では、わが国の戦前と戦後の教育課程の歩みを理解すること、学習指導要領の役割と性格について理解すること、教育課程編成の基本的原則及び編成の方法について理解すること、カリキュラム・マネジメントについて理解すること、教育課程の評価について理解すること、教育課程の今日的課題について理解することなどを目標とする。 | | ◎ | | ○ | ◎ | | ○ | | | ○ | |
| | 特別活動の理論と方法 | SM2110 | ・特別活動の意義や指導法について、小集団における検討を通して理解を深める。 ・特別活動の3内容の現状と課題について、小集団検討を通して理解を深め、併せて活性化の具体的な提案を行うことができる。 | | ◎ | | ○ | ◎ | | ○ | | | ○ | |
| | 道徳教育の理論と方法 | SM2111 | ・道徳教育の歴史と現状、今日的課題について多角的な理解を深める。 ・道徳教育の理論の考察や授業実践例の分析を通して、その意義と問題点を明確化させる。 ・学校教育における道徳教育の指導法に対する知識と理解を深める。 | | ◎ | | ○ | ◎ | | ○ | | | ○ | |
| | 進路指導・生徒指導論 | SM2112 | ・生徒指導実践の教育的意義と理論について理解する。 ・具体的実践として学級経営や教科指導の進め方等を理解する。 ・進路指導実践の理論と実践について理解する。 ・勤労・職業観の積極的に形成する場と方法について理解する。 ・進路指導実践の学校体制や実践展開について理解する。 | | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | | ○ | |
| | 教職原論 | SM1107 | ・教職の意義や教員の役割、教員の職務内容について正確に理解する。 ・教員養成の歴史や現状、理想の教師像がどのようなものかを具体的に理解する。 ・日本の学校現場での問題から、教師に課せられた課題を理解する。 ・職業の選択肢としての教職への姿勢と意欲を明確なものにできるようにする。 | | ◎ | | ○ | | | ○ | | | ○ | |

スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科 カリキュラムマップ

| | | |
|------------|---------------|---|
| ディプロマ・ポリシー | 【知識・技能】 | ① こどもの発育・発達の基本的知識を修得し、その概要や運動との関係を説明できる。 ② 幼稚園および小学校における教育内容を理解し、適切な指導ができる。 ③ 基本的な運動技術およびそれらの指導技術を実践することができる。 |
| | 【思考力・判断力・表現力】 | ④ 社会における幼児教育ならびに初等教育に関する課題の実態を把握し、その関連要因、解決方法あるいは改善策を提示することができる。 ⑤ 幼稚園ならびに小学校において、対象の特性や諸条件に合わせて適宜教育・指導計画を立案し、実践の場面で臨機応変に改変し対応することができる。 |
| | 【主体性・多様性・協働性】 | ⑥ 情報を整理し、その結果をまとめるとともに、それらに関するプレゼンテーションを行うことができる。 ⑦ こどもやスポーツならびに教育に関する情報を、積極的かつ広範に求める態度を身につけている。 ⑧ 課題解決に対して、常に積極的に周囲と協力して取り組む態度を身につけている。 ⑨ 教育・指導の場面においては、参加者(受講者など)の立場を考慮することができる。 |

| 分野 | 科目名 | ナンバリング | 科目概要(*1) | カリキュラム・マップ | | | | | | | | | AL(*2) | |
|----|----------------------------|--------|--|------------|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | | |
| | 教育心理学1 | SM1108 | 教育における発達心理学の意義を理解すること。様々な発達の側面と、その理論、発達の原動力について理解すること。 | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | | | | |
| | 教育心理学2 | SM1305 | 様々な学習の理論と方法、授業の過程、勉学への動機付けの高め方教育評価の意義とその効果的利用法、クラス作りなどについて理解出来るようにすることを通して、教育について考える態度を形成する。 | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | | | | |
| | 教育の制度と経営 | SM2113 | 公教育に携わる学校教員にとって、教師と子どもあるいは子ども同士の人格の相互交渉関係がどのような教育制度や教育法規の基盤の上で営まれているかという問題について理解を深めることは必要不可欠なことである。この授業の目的はそのような基礎的認識を形成することにある。具体的には、公教育の概念と歴史、現代の公教育制度の基本的原理、学校の歴史的発展過程の特質、学校経営の原則、学校と地域との関係について理解を深めることは大切である。日本国憲法、教育基本法をはじめとして学校教育法などの教育法規について基本的知識を習得していただきたい。 | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | |
| | 教育方法・技術論 (情報通信技術の活用を含む) | SM2114 | ・教育方法学の一つとしての授業デザインの基本的概念と教育実践への応用のための理論と方法を理解する。 ・メディアリテラシー(メディアに関する知識や技能)を高め、学習や教育の実践能力を養う。 ・メディアを利用した学習環境や授業設計の理論と方法を理解し実践する。 ・メディア[特にコンピュータ]を使ったいろいろな学習・教授方法を研究する。 | | ◎ | | | | ○ | ◎ | ○ | | | |
| | 教育相談の基礎 | SM3109 | 公立小学校で英語を教える力をつけるために、「小学校英語教育」の概論と具体的な指導方法を扱う。 とりわけ、学習指導要領にある児童の「聞くこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」「書くこと」「読むこと」についての知識・技能と、それらを活用して、思考力、判断力、表現力を身につけさせる教育を目指すことや、児童の特質を活かした学習者のコミュニケーション能力を育成するためのコミュニケーション活動のあり方について、その指導方法並びに評価方法を扱う。 | | ◎ | | ◎ | ○ | | ○ | | | | |
| | 英語科教育法 | SM3110 | 公立小学校で英語を教える力をつけるために、「小学校英語教育」の概論と具体的な指導方法を扱う。 とりわけ、学習指導要領にある児童の「聞くこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」「書くこと」「読むこと」についての知識・技能と、それらを活用して、思考力、判断力、表現力を身につけさせる教育を目指すことや、児童の特質を活かした学習者のコミュニケーション能力を育成するためのコミュニケーション活動のあり方について、その指導方法並びに評価方法を扱う。 | | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | | ○ |
| | 初等英語 | SM3111 | 小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場面を意識しながら身に付け、小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景知識を身に付けるための授業を、実践指導を中心に行なう。 | | ◎ | | | ◎ | ○ | ○ | | | | ○ |
| | 学級経営論 | SM3316 | ・今日の教育をとりまく状況を把握し、学級担任として求められる資質や能力について理解を深める。 ・学級経営の基本的な事項について正しく理解をする。 ・すべての子どもが安心・安定して学習・生活できる学級づくりについて多面的に理解する。 ・望ましい集団づくりをめざした取り組みを実践的に学ぶ。 | | ◎ | | ◎ | ◎ | | ○ | | | | ○ |
| | 特別支援教育論 | SM3112 | 特別の支援を必要とする幼児、児童生徒の障害や困難の理解や実態把握、具体的な支援の方法について体験的な内容(演習を含む)を交えながら講義を行う。また、効果的な支援を行うための学校組織の在り方や制度の活用、家庭及び地域・関係機関との連携について実践例を交えながら講義を行い、理解を図る。 | | ◎ | | ○ | ◎ | | ○ | | | | ○ |
| | 総合的な学習の時間の指導法 | SM3113 | 「総合的な学習の時間」についての理解を深め、学習指導案および授業が実施できるよう、(1)理論の検討(2)実践事例の検討(3)指導計画作成(4)発表・模擬授業・振り返りを行う。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | | | ○ |
| | 小学校教育実習事前・事後指導 | SM4308 | 教育実習の経験を通して、教員の使命とは何か、生徒の個性を理解するとどのようなことか、生徒の成長・発達を支援するとどのようなことか、また自分の教師としての適性の有無はどうかということなどについて主体的に理解することを目標とする。 | | ◎ | ▲ | | ◎ | ◎ | ▲ | ○ | ◎ | | |
| | 教育実習1(小学校、インターンシップを含む) | SM3317 | 教育実習の経験を通して、教員の使命とは何か、生徒の個性を理解するとどのようなことか、生徒の成長・発達を支援するとどのようなことか、また自分の教師としての適性の有無はどうかということなどについて主体的に理解することを目標とする。 | ▲ | ◎ | ▲ | ○ | ◎ | ◎ | ▲ | ○ | ◎ | | |
| | 教育実習2(小学校) | SM4309 | これまで大学で学んできた一般教養、専門教養、教職教養の成果を実習校での教育活動に参加することによって、とりわけ実際に教壇に立って授業を行う本実習によって実証研究することが目的である。 | ▲ | ◎ | ▲ | ○ | ◎ | ◎ | ▲ | ○ | ◎ | | |
| | 保育内容指導法(言葉) | SM2115 | 領域「言葉」についてのねらい・内容について学ぶ。幼稚園における「言葉」について、活動の内容・環境の構成・援助のあり方について学ぶ。 | | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | | ○ |
| | 保育内容指導法(環境) | SM2116 | ・幼児が身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うためには、どのように幼児に関わればよいかを理解できる。 ・幼児と一緒に遊びながら環境を取り入れる力を養う方法を理解できる。 ・幼児の環境を取り入れる力を養うための教材を理解できる。 ・幼児が環境を取り入れる力を養うための方法が理解できる。 | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | | |
| | 保育内容指導法(健康) | SM2117 | ・幼児を取り巻く人間関係を概観し、さまざまな人との関係性の中で発達していく幼児の姿を学ぶ。また、「子どもの育ちを支える保育者」としてのあり方を総合的な視点から理解する。 ・幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらい、内容について理解する。 ・実践課題、グループワークやディスカッションを通じて自己を振り返り、他者を理解する中で人とかわる力を身に付ける。 ・保育実践における保育内容を「人間関係」という視点で捉え、援助方法について理解し、実践につなげる。 | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | | | ○ |
| | 保育内容指導法(人間関係) | SM2118 | 幼児教育における領域、保育内容についての理解に基づき、領域「表現」の意味について学習する。感性と表現を育てる保育のあり方、方法について実践事例により理解する。 | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | | |
| | 保育内容指導法(表現・音楽) | SM2119 | 子どもの発達段階に応じた歌唱、遊び歌、手遊びなどの音楽表現と、楽典、ソルフェージュ、簡易伴奏など音楽の基礎技能を身に付けることを目的とする。乳幼児向けの音楽表現には、発達段階に応じたもの他、日本の風情を表す季節感のあるものや地域に伝承されてきた音楽表現が数多く存在する。子どもたちの健全な身体の発達を促し情操を高めるために、多くの音楽表現の習得を通し保育者として豊かな表現力や人間性を養うことを目指す。基礎技能では、弾き歌いや、コードの習得を含めた伴奏法、アレンジや移調の方法を身に付ける。 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | | |

スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科 カリキュラムマップ

| | | |
|------------|---------------|---|
| ディプロマ・ポリシー | 【知識・技能】 | ① こどもの発育・発達の基本的知識を修得し、その概要や運動との関係を説明できる。 ② 幼稚園および小学校における教育内容を理解し、適切な指導ができる。 ③ 基本的な運動技術およびそれらの指導技術を実践することができる。 |
| | 【思考力・判断力・表現力】 | ④ 社会における幼児教育ならびに初等教育に関する課題の実態を把握し、その関連要因、解決方法あるいは改善策を提示することができる。 ⑤ 幼稚園ならびに小学校において、対象の特性や諸条件に合わせて適宜教育・指導計画を立案し、実践の場面で臨機応変に改変し対応することができる。 |
| | 【主体性・多様性・協働性】 | ⑥ 情報を整理し、その結果をまとめるとともに、それらに関するプレゼンテーションを行うことができる。 ⑦ こどもやスポーツならびに教育に関する情報を、積極的かつ広範に求める態度を身につけている。 ⑧ 課題解決に対して、常に積極的に周囲と協力して取り組む態度を身につけている。 ⑨ 教育・指導の場面においては、参加者(受講者など)の立場を考慮することができる。 |

| 分野 | 科目名 | ナンバリング | 科目概要(*1) | カリキュラム・マップ | | | | | | | | | AL(*2) |
|--------|----------------|-------------|--|--|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | |
| 幼児教育科目 | 保育内容指導法(表現・造形) | SM2120 | 幼稚園教育要領の5領域の一つである「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを目指す領域として位置づけられている。そのねらいとして、「いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」の三つが挙げられている。幼児の「感じる・考える・工夫する」姿を支える保育者として、幼児の表現活動に柔軟な姿勢で向き合い、共感的に受容できるように、造形活動の基礎的知識、保育の現場における活動展開等について学修する。 | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | |
| | 幼児と人間関係 | SM3318 | 現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。 | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ▲ | ◎ | | |
| | 幼児と環境 | SM3319 | 現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。 | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ▲ | ◎ | | |
| | 幼児と言葉 | SM3320 | 領域「言葉」について、言語の発達段階を踏まえ、言葉による知的活動、コミュニケーション、感性・情緒の基盤となる役割を理解する。多様な言語文化財の内容と価値を学んで、言葉を豊かに育む教材選択や実践に関する知識・技能を身に付ける。 | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 幼児と表現1 | SM3321 | 領域「表現」の指導において、幼児の発達を踏まえた表現活動の在り方や、子どもの主体的な活動に結びつく楽しさについて体験的に理解するとともに、総合的な表現遊びの実践づくりを通して、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 幼児と表現2 | SM3322 | 子どもたちが自由に行う造形活動を通して、豊かな感性や表現する力を養い育むために、保育者として必要な造形の基礎的な知識・技能を学ぶ。 | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ○ | ▲ | ◎ | ◎ | |
| | 保育内容総論 | SM1109 | 保育の全体構造と保育内容の歴史的変遷とその社会的背景を学び、保育の基本的な考え方や教育が一体的に展開する保育、子どもの主体性を尊重し環境を通して行う保育を事例や視覚教材等から具体的に学び、模擬保育を行い、それを受講者間で評価し合う。また、家庭や地域との連携、小学校との連携・接続の必要性とその保育について学ぶ。 | ◎ | ◎ | | ◎ | ▲ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 保育・教育課程論 | SM2121 | この授業では、教育課程や保育課程など、幼稚園や保育所、認定こども園の子どもたちの、入園から卒園までの全体的な計画の編成の意義・役割について考えます。まずは、教育課程や保育課程の実際に触れながら考えていきましょう。また、日々の保育実践や指導計画のかかわりについて、テキストや幼稚園教育要領・保育所保育指針から学びます。 | ○ | ◎ | | ○ | ◎ | | ▲ | | ○ | |
| | 幼児体育 | SM3323 | 幼児期にとって体を動かすことは大変重要である。なぜ体を動かす体育や運動遊びが必要なのかについて講義する。また、実際にどのような内容を行えばよいのかについて講義し、またどのように実施すればよいのかについても実技を実施する。さらに自ら実施できるように計画を立てる。 | ◎ | ○ | | ○ | | ◎ | ▲ | | ○ | |
| | 幼稚園実習事前・事後指導 | SM3324 | 幼稚園教育実習1・2のための事前・事後指導を行います。事前指導では、幼稚園について基本的な認識を確認し、実習の目的、進め方、記録の取り方等を説明します。事後指導では、各自が実習を振り返り、それぞれの体験を共有することを通して自己の課題を明確にします。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 教育実習1(幼稚園) | SM3325 | 教育実習1(幼稚園)は、幼稚園実習の最初の段階として位置づけられます。幼稚園の保育に参加することによって、一日の保育の流れや保育者の役割について体験的に学びます。また、子どもと主体的に関わることを通して子ども理解を深めます。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 教育実習2(幼稚園) | SM3326 | 教育実習2(幼稚園)では、教育実習1(幼稚園)を踏まえ、保育者を目指す学生としての使命感・責任感をもって子ども理解を深め、クラス運営や園務を実践するための能力を高めます。そのために、具体的な指導案を立案し、責任実習に臨みます。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 演習科目 | 教職実践演習(幼・小) | SM4310 | ・これまでの学修を振り返り、将来教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかをしっかりと自覚することができる。 ・前述を踏まえ、設定した課題研究を主体的に遂行し、研究の足跡を確実に残す取り組みを行うことができる。 ・教師としての資質と能力とは何かを常に問いかけ、自らの感性と姿勢を磨くことができる。 ・課題研究をまとめ、今後のキャリアプランを作成することができる。 | | ◎ | ▲ | ○ | ◎ | ◎ | ▲ | ○ | ◎ |
| 専門演習 | | SM2122 | 担当教員ごとに個別の達成目標 | ○ | ○ | ○ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 研究演習 | | SM3114 | 担当教員ごとに個別の達成目標 | ◎ | ○ | ○ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| 卒業研究 | | SM4103 | 担当教員ごとに個別の達成目標 | ◎ | ○ | ○ | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | | |